

ふかめる

分かる快感!

# Z会ナビ

算数

理科

社会

## お題

### 年表を作ってみよう

(2018年11月実施 大学入学共通テスト試行調査 日本史B)



さおりさんとともきさんは歴史の授業でそれぞれテーマを設定して調べ学習を行いました。ふたりがそれぞれ作成した年表は次のとおりです。ふたりが調べたテーマはそれぞれ何か、答えなさい。

#### 【さおりさんの年表】

弥生	稲作が始まる
奈良・平安	寺院が土地を開拓して大規模な私有地をもった
戦国	武田信玄が堤防を築く
江戸	印旛沼の干拓が失敗する
現代	郊外に大規模な住宅地が つくられる

#### 【ともきさんの年表】

原始	九州南部で噴火により集落がなくなる
平安	東北地方の太平洋側に津波がくる
室町	地震で鎌倉大仏が被害を受ける
江戸	浅間山の噴火で大規模な被害が出る
大正	関東大震災が発生して大規模な被害が出る



事が出てくるのがわかります。このことから、ふたりの調べ学習は、特定の人物や一つの時代の出来事を掘り下げる方法ではなく、一つのテーマについて時代をまたいで流れや展開を追いかける方法をとっているのではないかと気づいた人もいるかもしれませんね。このように、特定のテーマに沿って時代をまたいで歴史を見る方法を「テーマ史」と言うことがあります。テーマ史は、一つのテーマに絞って歴史の流れを確認することができるので、時代ごとの特徴や転換点をつかみやすい点が特徴です。歴史の学習というと時代ごとに古い時代から順に学ぶ方法が一般的ではありますが、テーマ史の学習をすると、さらに理解が深まるのでおすすめです。

#### ふたりの年表のテーマは？

ふたりの年表のテーマについて、それぞれ次の三つのうちのどれがあてはまるか、考えてみましょう。

- ①災害と人々との関係史
- ②文化と人々との関係史
- ③開発と人々との関係史

ともきさんの年表には「噴火」「津波」「地震」と自然災害の項目が並んでいますので①とわかります。さおりさんの年表には「稲作」「寺院の私有地」「堤防」「干拓」「住宅地」と、一見さまざまな単語が並んでいるように見えますが、選択肢とあわせて考えると、さおりさんの年表にある項目はいずれも「人々が土地をどのように開発して利用していったのか」を表すものであるとわかります。よって、正解は③となります。

それでは、もう1問、次の文がふたりの年表のうち、どちらのどの時代にあてはまるか、考えてみましょう。

「築城技術などを応用することで、大規模な河川工事が可能になり、耕作地を増やすことができるようになった。」

城というと壮麗な天守など建物のイメージがあるかもしれませんが、戦いの拠点であった城には、建物だけでなく石を積み上げた石垣や、土を掘ってつくる堀なども含まれました。城をつくるためには、今でいう土木工事の技術が必要不可欠だったのです。

戦国時代には戦いのためにたくさんの城がつけられ、それにより土木工事の技術が発達しました。この文では、その後平和になった江戸時代に、その技術を活用して耕作地が開拓されたことをさしています。土地の開発と利用に関する内容なので、さおりさんの年表の江戸時代の項目に入ります。(Z会・河原井彩)

歴史などの社会科の学習では調べ学習が重視されており、2020年度から全面実施となった新しい学習指導要領(国が定めている学習の指針のことです)でも積極的に授業に取り入れるように勧められています。今回は、その調べ学習をテーマにした問題です。

#### 時代をまたいでテーマでまとめる

歴史の調べ学習、と言われたとき、みなさんがイメージするテーマはどのようなものでしょうか。「豊臣秀吉について」「縄文時代のひとびとの暮らしについて」など、何か一つの時代の人物や出来事を掘り下げてまとめるものを想像される人も多いのではないのでしょうか。その観点で見ると、さおりさん・ともきさんの年表はどうでしょうか。二つの年表はどちらも原始時代から大正時代や現代までの長い時代を扱っていることが特徴的です。また、さおりさんの年表には「稲作」「寺院の私有地の開拓」「堤防の建設」「干拓」「住宅地の造成」、ともきさんの年表には「噴火」「津波」「地震」とさまざまな出来



ふたりの年表の項目について調べたり、年表に追加する項目を考えたり、自分で選んだテーマで年表を作ってみてもよいですね。



河原井彩さん 2007年に入社。中学生向け社会、高校生向け日本史教材の編集を経て、現在は幼児向け教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。